

肉の灰干し

一 対象 小学校 高学年

二 主題名 郷土を元気に

三 ねらい

郷土を大切にしている人たちの努力を知り、郷土を愛する心情を育てる。

(4) (7)

四 発達の段階と資料の特質

小学校高学年の児童は、これまでに社会科等の学習を通して、宮崎県や自分の地域の理解を深め、郷土への愛着が高まってきており、郷土の伝統と文化を育てた先人の努力や功績についても理解しつつある。この時期に、自分もまた、それらを継承し発展させていこうとする心構えを育てたい。

本資料は、新燃岳の噴火の影響を受けた地元の町を、どうにかして活性化しようと考えた主人公が、火山灰の活用に着目し、肉の灰干しに挑戦し、特産品にしようとする内容である。地元のために様々な実践をしていく主人公の行動や心情に迫ることで、郷土を愛する心情を育てることができる。

五 展開例

- 1 新燃岳噴火の様子の写真を見て感想を話し合う。
- 2 資料「肉の灰干し」を読んで、話し合う。
- (1) みんなで握手をかわした谷山さんは、どんなことを考えていたでしょう。
- (2) 肉の灰干しの試作品の発表会が成功した時、谷山さんはどのような気持ちだったでしょう。
- (3) 谷山さんが、高原のためにできることを次々に考え実行するのはどうしてでしょう。
- 3 これまでに自分の地域のために実行したことについて話し合う。
- 4 郷土のために頑張っている人について教師の説話を聞く。

六 指導上の留意点

新燃岳噴火の様子や被害の大きさを導入で示すことで、資料への関心を高める。

展開後段や終末段階で、心のノート「見つめようわたしのふるさと」そしてこの国「も活用できる」。

七 参考資料等

NPO法人たかはるハートム代表の谷山さんへのインタビューをもとにストーリーを構成した。

高原町役場ホームページ内「広報たかはる」

【写真提供】高原町